

給食の放射性物質測定の結果について

○給食提供年月日 平成23年12月16日（金）

【検査結果の表示方法】

- 検出された場合には、その測定値を表示しています。
- 「<〇.〇」と表記しているのは、検出下限値（検出できる最小の値）未満であることを表しています。（例えば、「<1.2」とは、放射性物質の値が、0から1.2未満の範囲内です。）
- 検出下限値は、検査対象の給食の内容（水分の比率等）や自然界に存在する他の放射性物質（主にはカリウム40）の含有量等によって変動するため、検体ごとに数値が変わります。

【検査結果】

【調理済み給食】

施設名	献立	測定結果 単位：Bq/kg		
		放射性 ヨウ素-131	放射性 セシウム-134	放射性 セシウム-137
青柳保育園	ご飯、けんちん汁、さばのみそ煮、煮豆、ブロッコリーの煮浸し、チョコチーズケーキ、いちご、牛乳	<1.1	<1.2	<1.2
こひなた保育園	ご飯、けんちん汁、さばのみそ煮、煮豆、ブロッコリーの煮浸し、揚げパン、牛乳	<1.0	<1.2	1.4
大塚保育園	ご飯、けんちん汁、さばのみそ煮、煮豆、ブロッコリーの煮浸し、揚げパン、牛乳	<1.0	1.0	1.1
目白台保育園	ご飯、けんちん汁、さばのみそ煮、煮豆、ブロッコリーの煮浸し、揚げパン、牛乳	<1.1	<1.1	<1.1
八千代保育園	手作りさつま芋チップス、ヨーグルト、りんご、ご飯、鶏肉のごま焼き、南瓜素揚げ、キャベツサツ煮、大根含煮、みそ汁	<1.2	<1.1	<1.2

日本興亜スマイルキッズ江戸川橋保育園	ツナとえのきのおにぎり、煮ごぼう、牛乳、パン、チキングラタン、かぼちゃ甘煮、人参甘煮、オニオンスープ、りんご	<1.1	<1.0	<0.9
青柳小学校	たらこふりかけごはん、とり肉のカシューナッツ炒め、すまし汁、牛乳	<1.0	<1.0	<1.2
関口台町小学校	みそラーメン、杏仁豆腐、牛乳	<0.8	<1.0	<1.1
茗台中学校	けんちんうどん、ごまだれ団子、牛乳	<1.0	<1.0	<1.1
音羽中学校	味噌ラーメン、ジャンボ揚げ餃子、乳ない豆腐、牛乳	<1.1	<1.2	<1.4

【牛乳】

施設名	測定結果 単位：Bq/kg		
	放射性ヨウ素-131	放射性セシウム-134	放射性セシウム-137
八千代保育園	<0.7	1.0	1.0
日本興亜スマイルキッズ江戸川橋保育園	<1.0	<1.0	<1.2

【今回の調理済み給食の測定値を基に年間累積放射線量を計算してみると】

検出された施設の給食（セシウム 134 が 1.0Bq/kg、セシウム 137 が 1.1Bq/kg）の例で、一食当たりの実効線量は、 $0.0131 \mu\text{Sv}$ となります。

この給食を 1 日 3 食、一年間摂取したと仮定した場合の食品による年間累積放射線量は、

$0.0131 \mu\text{Sv} \times 3 \text{食} \times 365 \text{日} = 14.3445 \mu\text{Sv} \div 100 = 0.143445 \text{mSv}$ （注） となります。

この値は、厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している年間 1 mSv と比較して、極めて低い数値です。

（注） $1 \text{mSv} = 1000 \mu\text{Sv}$

（参考）給食 1 食分の内部被ばくの実効線量は、国際放射線防護委員会が示す実効線量係数から算出しています。

ベクレル（Bq）は、放射能の強さを計る単位で、シーベルト（Sv）は、人間が放射線を受けた場合の影響を示す単位です。

現在の食品に関する暫定規制値は、放射性セシウムで年間 5 ミリシーベルトを基準に設定されています。この暫定規制値については厚生労働省から、年間 1 ミリシーベルトを基本に設定を見直す方向性が示されています。